

虐待を受けた子供 ケアを

虐待を受けた子供らに対するサポートを充実させようと、東京都港区と神戸市に拠点を置くNPO法人「シンクキッズ」は、被害にあった児童らが、無料で病院治療を受けたりカウンセリングを受診したりすることができる支援の取り組みをスタートさせた。児童相談所などの関係機関と連携して課題のある児童を把握、専門医や臨床心理士との間を取り持つ。性犯罪や虐待で傷ついた子供たちのなかには、十分にケアされていないケースも多く、関係者は「潜在的なニーズは多いはず」としている。

NPO、診察費無償へ支援



虐待を受けた子供をサポートするNPO法人「シンクキッズ」の代表理事、後藤啓二弁護士

シンクキッズは昨年7月に設立。大阪府警で犯罪防止や少年事件などを取り扱う生活安全部長だった後藤啓二弁護士(53)が代表理事を務め、顧問には、国松孝次・元警察庁長官、元大阪府助役の大平光代弁護士が就任している。虐待や性犯罪では、児童らが身体的な外傷を負ったり、心に深い傷を負ったりする場合も少なくない。シンクキッズは、賛同者からの寄付金をもとに、被害にあった子供たちを無料で支援する仕組みを構築。ケアが必要な児童や生徒を確認すれば、専門医らを紹介、シンクキッズが費用負担して、診療を受けさせる。

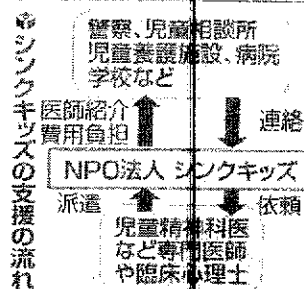
児童相談所に保護された児童らは公的なサポートが受けられる一方、在籍指導になった児童らの通院費などは原則、個人負担で、経済的負担が大きいのが課題となっており、受診すらできない子供もいるという。

また、虐待や犯罪被害に巻き込まれた児童らのケアを専門とする医師や臨床心理士は少なく、実際に診療を受けようとしても長期の受診待ちがあるという。

シンクキッズはすでに、兵庫県や神戸市と連携関係にあり、東京都や神奈川県の関係機関との連携も模索中。今後は大阪、京都府などにもエリアを拡大することも検討している。

後藤弁護士は「被害にあった子供たちのなかには、心などに深刻な問題を抱えながら大人になってしまうケースもある。シンクキッズが開催するシンポジウムなどを通じ、賛同者を増やし、多くの子供を救っていきたい」と話している。

シンクキッズのシンポジウムは4月21日午後1時半、神戸市中央区のバレス神戸で開催予定。内科医で日本子ども虐待医学研究会理事の山田不二子氏らがパネルディスカッションし、課題などを探る。問い合わせは、シンクキッズ(078・779・9454)まで。



シンクキッズは、大阪府警生活安全部長などを歴任し、少年事件や児童虐待の犯罪抑止などに携わってきた後藤啓二弁護士(53)が代表理事となり、昨年7月に設立。国松孝次・元警察庁長官、元大阪市助役の太平光代弁護士が顧問を務めて

シンクキッズは、大阪府
いる。

後藤弁護士が同部長時代に扱った少年事件では、不特定多数の男性と性交渉を繰り返して補導された少女が、実は親から深刻な虐待を受けていたというケースも。「虐待を受けた子どもは心に深い傷を抱え、自分

のことを大事に思えなくな
ってしまつたのでは」と、精
神的ケアの必要性を痛感し
たのが、活動のきっかけだ。
ケアが必要な子どもにつ
いて児童相談所や児童養護
施設などから連絡を受け、
カウンセラーが児童精神科
医や臨床心理士らを紹介。
無料で治療やカウンセリング
金を受けられるよう、寄付
金を財源に、費用を提供す
る仕組み。

神戸のNPO「シンクキッズ」

虐待や性犯罪で傷ついた子どもたちを救おうと、神戸市と東京都に拠点を置くNPO法人「シンクキッズ」が、関係機関と連携し、専門医を紹介したり、治療費を負担して無料で治療や精神的ケアを受けさせたりする活動を始めた。21日には、同市で初のシンポジウムを開き、虐待が心に与える影響や課題を考える。



虐待を受けた子どもらへの思いを語る後藤弁護士（19日、神戸市中央区で）＝浜井孝幸撮影

虐待や性犯罪を受けた子どもたちへ

1人で苦しまないで

すでに紹介できる医師を確保し、兵庫県や神戸市との連携態勢を整えており、今後、東京都や神奈川県にも協力を求めて、支援網を広げる考え。

談所への虐待の通報件数は年間5万件以上を数える。後藤弁護士は「苦しんでいる子どもたちを一人でも多く助けたいと話している。

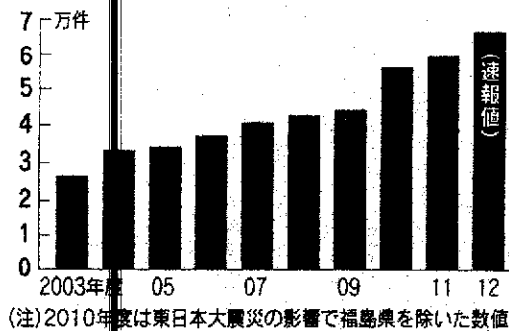
シンポジウムは、神戸市

虐待を受けた子どもへの
中央区のパレス神戸で午後
1時半に開会。犯罪被害者
支援を担当した兵庫県警警
察官や精神科医、児童養護
施設理事長らがパネリスト
として参加する。問い合わ
せは、シンクキッズ（07
8・779・9454）。

虐待児童にケアの輪

虐待や性犯罪の被害を受けた子供が適切な心のケアを受けられるよう、NPO法人「シンクキッズ」(東京・港)が兵庫県や神戸市と連携した取り組みを始めた。警察や児童相談所などに寄せられた通報の中から、ケアが必要な子供について連絡してもらい、専門医を紹介したり、治療費をカバーしたりする。児童虐待が年々増加する中、「誰でも支援を受けられる体制づくりを全国に広げたい」としている。

児童相談所での虐待相談対応件数



神戸市にも事務所を構えるシンクキッズはこのほど、兵庫県や同市、兵庫児童警察などと連携。児童虐待通報に対応した相談員や警察官からシンクキッズの取り組みを子供関係者に紹介してもらい、心の傷を癒やす治療を希望する子供がいれば連絡が入る仕組みをつくらせた。

心のケアなどに携わる県内の専門医や臨床心理士にも協力を呼びかけ、

医師紹介、費用も補助

連絡を受けた子供を優先的に受け入れてもらうようにした。治療費も賛同者からの寄付金などから全額補助する。

代表理事の後藤啓三弁護士(54)は大阪府警生活安全部長なども務めた元警察庁キャリア。多くの少年事件や虐待事件にも携わった経験から、「虐待や性犯罪で心に傷を負った子供は自分を大切に存在だと思えなくなり、自傷行為や非行に走ることもある」とケアの必要性を強調する。

出会い系サイトで見知らぬ男性と性交渉を繰り返して補導された少女が、親から深刻な虐待を受けていたケースもあったという。

厚生労働省によると、全国の児童相談所の虐待

の相談対応件数は年々増加しており、2012年

度は約6万7千件と過去最多を更新。この期間で2・5倍に膨らんでいる。

一方、子供の心のケアを専門とする日本児童青年精神医学会の認定医は全国で約200人と少なく、支援体制は十分に整っていない。専門医の診療を受けるのに数カ月の待ち時間があるという。

カウンセリングは保険適用外の自由診療のため1回1万〜2万円の自己負担を求められることもあり、経済的負担も適切にケアを受けられない大きな要因となっている。

シンクキッズでは同様の支援体制づくりを全国に広めるため、ほかの自治体とも協議を進めている。後藤弁護士は「誰もが適切なケアを受けられる支援体制づくりが急務。虐待や性犯罪の心の傷に苦しむ子供を一人でも多く助げたい」と話す。

2013年7月31日 日経